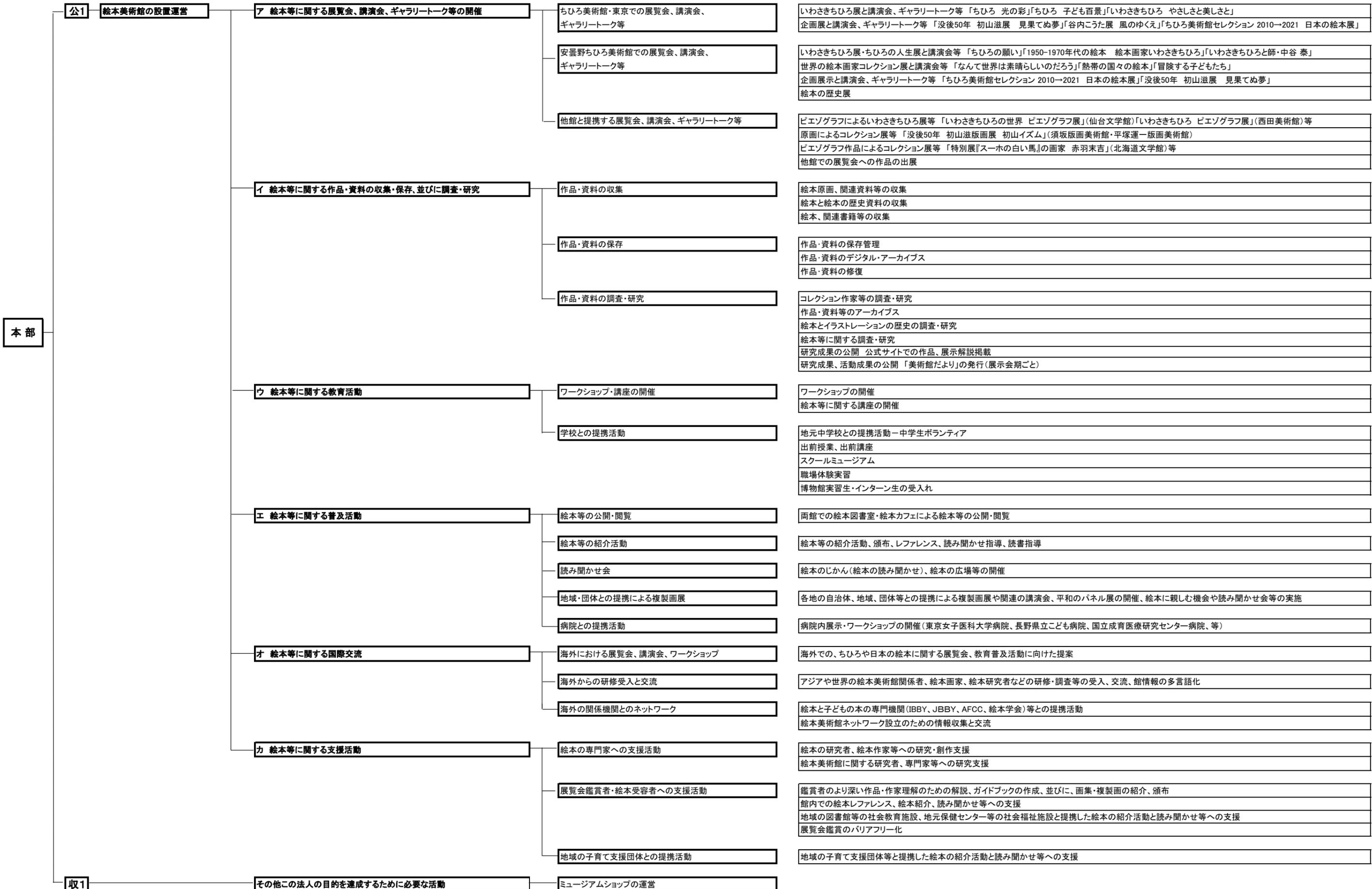


2023年度 事業報告書

2023年4月1日～2024年3月31日

I	2023年度事業報告 事業の体系図	1
II	2023年度事業報告一覧	2

公益財団法人いわさきちひろ記念事業団



事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
公1 絵本美術館の設置運営					
ア 絵本等に関する展覧会、講演会、ギャラリートーク等の開催					
■ちひろ美術館・東京での展覧会、講演会、ギャラリートーク等					
【いわさきちひろ展】	ちひろ 光の彩(いろいろ)	ちひろは、水彩絵の具の濃淡やにじみ、余白、色のイメージなどを駆使し、形のない光を巧みに描き出した。本展では、四季の陽光が感じられる作品や、人物のシルエットが浮かび上がる作品、光のなかに少女の心の機微を表した至光社の絵本などを展示し、技法にも着目しながら、ちひろの光の表現を紹介した。	11,071名	3月18日～6月18日	ちひろ美術館・東京
	ちひろ 子ども百景	あかちゃんの月齢を描き分けた画力と母親としての深い愛情が、あらゆる子どもの姿や心理をとらえたちひろの作品を生み出した。本展では、初期のスケッチから中期の絵雑誌、後期の代表作にいたるまで、ちひろが描いた子どもの情景の変遷をたどった。あわせて、松田道雄との育児書の仕事に注目した。	9,867名	6月24日～10月1日	ちひろ美術館・東京
	いわさきちひろ やさしさと美しさ	ちひろは、「私は私の絵本のなかで、いまの日本から失われたいろいろなやさしさや、美しさを描こうと思っています。」と語っている。本展では、ちひろのことばなどをもとに、ちひろの作品や絵本を知る上でのキーワードでもある「やさしさや、美しさ」とはなにかを探り、紹介した。	12,439名	10月7日～2024年1月14日	ちひろ美術館・東京
【企画展示】	没後50年 初山滋展 見果てぬ夢	童画や木版画に、自由自在に独自の表現を展開した初山滋(1897～1973)。「童画の誕生」「変幻自在の線」「自刻自摺の木版画」「子どもの夢」「物語の世界」「光と水と、虹と、鳥と」の6つの章を立てて約160点の作品や資料を展示し、初山滋の人生を追いながら画業の全体像を紹介した。	(11,071名)	3月18日～6月18日	ちひろ美術館・東京
	谷内こうた展 風のゆくえ	谷内こうた(1947-2019)は、叔父谷内六郎のすすめで絵本を描きはじめ、『なつのあさ』が日本人として初めてボローニャ国際児童図書展グラフィック賞を受賞、早くから国内外で注目を集めた。本展では、絵本原画とともに、雑誌の表紙絵や油彩画も展示し、谷内こうたの画業を初期から晩年まで紹介した。	(9,867名)	6月24日～10月1日	ちひろ美術館・東京
	ちひろ美術館セレクション 2010→2021 日本の絵本展	2011年の東日本大震災や2019年末からつくづく新型コロナウイルス感染症の流行に加え、経済格差の拡大やスマートフォンの普及など、子どもを取りまく環境が大きく変化した2010年代。絵本の世界でも、2000年代より一層世代交代が進み、新しい世代のつくり手たちのめざましい活動がみられた。2010年以後から2021年までに出版された、時代を象徴する絵本や作家を紹介した。	(12,439名)	10月7日～2024年1月14日	ちひろ美術館・東京
【講演会】	「初山滋展」関連 講演会「初山滋の魅力」(オンライン)	初山滋の研究者で、『初山滋 永遠のモダニスト』の著者でもある竹迫祐子の講演会を開催した。	90名	3月26日	ちひろ美術館・東京(オンライン)
	「谷内こうた展」関連 講演会「ボンジュール こうたさん！—父と絵本の旅—」	谷内こうたの長女であり、フランスの出版社に勤務する谷内草氏が講演を行った。	会場33名、オンライン50名、計83名	7月9日	ちひろ美術館・東京およびオンライン
	「谷内こうた展」関連 講演会「谷内こうたの世界—風と光と音の詩人」	谷内こうたを知る松本猛による講演会を行った。 *文化庁:令和5年度文化芸術振興費補助金(Innovate MUSEUM)事業	会場26名+サテライト17名、計43名	9月3日	練馬区立石神井図書館、サテライト(南田中図書館、貫井図書館)
	「谷内こうた展」関連 鼎談「編集者が語る 谷内こうたと絵本の魅力」	谷内こうたに長年魅せられ、その人柄と作品を敬愛する3名の編集者が、谷内こうたと彼の絵本の魅力について語った。	会場22名、オンライン36名、計58名	9月10日	ちひろ美術館・東京およびオンライン
	「2010→2021 日本の絵本展」関連 対談 村上康成・はたこうしろう「いま、絵本でつたえたいこと」	絵本画家・村上康成と、はたこうしろうによる対談を行った。 *文化庁:令和5年度文化芸術振興費補助金(Innovate MUSEUM)事業	会場28名+サテライト40名、計68名	10月8日	練馬区立石神井図書館、サテライト(南田中図書館、貫井図書館)
【ギャラリートーク】	松本猛ギャラリートーク	いわさきちひろのひとり息子・松本猛が、母の思い出や作品にまつわるエピソード、展示の見どころなどを語った。	各回15名	5月14日、8月6日、12月10日	ちひろ美術館・東京
	展示担当者、普及担当者によるギャラリートーク	開催中の各展示の見どころ等を、作品を見ながら展示担当者や普及担当者が解説した。	各回15名	毎月第1・3土曜日	ちひろ美術館・東京
■安曇野ちひろ美術館での展覧会、講演会、ギャラリートーク等					
【いわさきちひろ展】	ちひろの願い 世界中のこどもみんなに 平和と しあわせを	ちひろは、青春時代を戦時下で過ごし、戦後は画家として、平和への願いを絵筆に託して描き続けた。本展では、ちひろの歩みをたどりながら、初期の素描から晩年の代表作、戦争をテーマにした3冊の絵本を展示し、ちひろの平和への願いを伝えた。	21,162名	3月1日～5月28日	安曇野ちひろ美術館
	1950-1970年代の絵本 絵本画家いわさきちひろ	ちひろは、「こどものとも」の一作として出版された『ひとりのできるよ』から始まり、童心社の「若い人の絵本」シリーズ、至光社の絵本シリーズなど、数々の絵本を手がけた。本展では、日本の絵本が発展した1950年代から1970年代の時代背景をふまえて、資料や編集者のことばとともに絵本の仕事を紹介し、ちひろの絵本画家としての画業をたどった。	33,343名	6月3日～9月3日	安曇野ちひろ美術館
	いわさきちひろと師・中谷 泰	第二次世界大戦中から戦後にかけてちひろが師事し、彼女が画家として立つ決意を固める過程を見守った画家が中谷泰であった。ちひろが亡くなるまでふたりの交流は続いた。本展では、2022年に三重県立美術館で開催した「いわさきちひろ展 中谷泰を師として」で深められた研究を踏まえ、ふたりの画家、それぞれの造形的探究とともに、響きあうあたかなまなざしを紹介した。	25,140名	9月9日～11月30日	安曇野ちひろ美術館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
【いわさきちひろ展】	ちひろの人生	ゆかりの品々や資料、ちひろの人生を紹介するパネルなどにより、ちひろの絵と人生、その人柄を伝えた。2022年から続くウクライナでの戦争を受け、1963年のソビエトの旅でちひろがキエフを描いたスケッチなどを展示し、ちひろの平和への願いを伝えた。		通年	安曇野ちひろ美術館
	子どもの展示室「トットちゃんの部屋」	『窓ぎわのトットちゃん』に登場する電車の教室の一部再現や、ちひろの絵で楽しむトットちゃんの物語、トモエ学園の紹介など、トットちゃんの世界を子どもたちの目線で楽しむことのできる展示を行った。		通年	安曇野ちひろ美術館
【世界の絵本画家コレクションの展示】	ちひろ美術館コレクション なんて世界は素晴らしいのだろう	人は、どのようなときに世界は素晴らしい、と感じるのだろうか。国や言語は異なっても、同じ人間として、共通したものがあるため、遠い国の画家が描いた絵に心が動くことがある。本展では、素晴らしい世界を描いた絵本や作品を紹介し、画家たちのことばとともに展示した。	(21,162名)	3月1日～5月28日	安曇野ちひろ美術館
	司修『まちんと』原画展	広島原爆で被災した女の子を主人公とした絵本『まちんと』(松谷みよ子・文、偕成社)のために司修が描いた作品が新たに収蔵されたのを機に、全原画を公開した。	(21,162名)	3月1日～5月28日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション 熱帯の国々の絵本	日・ベトナム外交関係樹立50周年を機に、ベトナムのタ・ヒー・ロンの絵本『姫君と望遠鏡』を中心として、赤道に近い熱帯の国々6カ国の画家のイラストレーションを展示し、豊かな自然や地域の独特ならしのなかで描かれたユニークな作品を紹介した。	(33,343名)	6月3日～9月3日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション 冒険する子どもたち	冒険を描いた物語には、さまざまな困難に立ち向かい、行く手を阻まれても勇気を持って進んでいく子どもたちが登場する。本展では、インノチェンティの『ピノキオのぼうけん』やディオドロフの『ニルスのふしぎな旅』など、冒険する子どもたちをテーマに作品を展示した。	(25,140名)	9月9日～11月30日	安曇野ちひろ美術館
【絵本の歴史展示】	絵本の歴史	「死者の書」や時禱書、絵巻物から20世紀初頭の絵本にいたるまで、絵本とイラストレーションの歴史に関わる作品・資料を、「手描き本の時代」「版本の時代」「子どもの本の時代(印刷本)」の3つの時代に分けて紹介すると同時に、第二次世界大戦中の子どものための絵雑誌も展示した。		通年(会期ごとに入れ替え)	安曇野ちひろ美術館
【企画展示】	ちひろ美術館セレクション 2010→2021 日本の絵本展	2011年の東日本大震災や2019年末からつづく新型コロナウイルス感染症の流行に加え、経済格差の拡大やスマートフォンの普及など、子どもを取りまく環境が大きく変化した2010年代。絵本の世界でも、2000年代より一層世代交代が進み、新しい世代のつくり手たちのめざましい活動がみられた。2010年以後から2021年までに出版された、時代を象徴する絵本や作家を紹介した。	(33,343名)	6月3日～9月3日	安曇野ちひろ美術館
	没後50年 初山滋展 見果てぬ夢	童画や木版画に、自由自在に独自の表現を展開した初山滋(1897～1973)。「童画の誕生」「変幻自在の線」「自刻自摺の木版画」「子どもの夢」「物語の世界」「光と水と、虹と、鳥と」の6つの章を立てて約160点の作品や資料を展示し、初山滋の人生を追いつながり画業の全体像を紹介した。	(25,140名)	9月9日～11月30日	安曇野ちひろ美術館
【ギャラリートーク】	「2010→2021 日本の絵本展」関連 絵本画家はたこうしろうによるアーティストトーク	絵本画家はたこうしろうが自作について語るアーティストトークを行った。	37名	7月29日	安曇野ちひろ美術館
	展示担当者、普及担当者によるスライドトーク	開催中の各展示の見どころを、展示担当者や普及担当者が解説するスライドトークを行った。	計153名	4月16日、6月25日、7月16日、9月24日、10月15日	安曇野ちひろ美術館
	展示担当者によるギャラリートーク	開催中の展示の見どころを、展示担当者が解説するギャラリートークを行った。	11名	3月16日	安曇野ちひろ美術館
■他館と提携する展覧会、講演会、ギャラリートーク等					
【展覧会】	いわさきちひろ ピエゾグラフィ展	いわさきちひろ生誕の地で、テーマに即してちひろの作品をピエゾグラフィで紹介した。 ①ちひろ 教科書の思い出 ②ちひろ 雨の日 晴れの日 ③おいしいちひろ④ ちひろの雪だより	4,988名	①3月17日～6月5日 ②6月16日～9月4日 ③9月16日～11月27日 ④12月8日～2024年3月4日	「ちひろの生まれた家」記念館(福井県越前市)
	ちひろ山荘ものがたり～画家いわさきちひろと建築家奥村まこと	2022年にギャラリーエークウッドと共催したピエゾグラフィ展「いわさきちひろと奥村まこと 生活と仕事」の内容をもとにした展覧会を開催した。	2,519名	4月15日～7月17日	黒姫童話館&童話の森ギャラリー(長野県信濃町)
	いわさきちひろの世界 ピエゾグラフィ展	ピエゾグラフィ作品と遺品、資料などでちひろの画業を紹介する展覧会を、開催館と協力して行った。	4,247名	4月29日～6月11日	仙台文学館(宮城県仙台市)
	ピエゾグラフィによる赤羽末吉「スーホの白い馬」展	赤羽末吉『スーホの白い馬』ピエゾグラフィ24点を展出し、モンゴルの民族衣装や馬頭琴など開催館の所蔵資料とともに展示した。	888名	7月15日～8月22日	豊岡市立日本・モンゴル民族博物館(兵庫県豊岡市)
	上市町新町制70周年 西田美術館開館30年記念展PART2 いわさきちひろ ピエゾグラフィ展—ちひろの描いた世界と日本のおはなし—	『おやゆびひめ』『ぼちのきたうみ』などのちひろの絵本をピエゾグラフィで紹介する展覧会を、開催館と協力して行った。	4,233名	7月22日～9月3日	西田美術館(富山県上市町)
	特別展『スーホの白い馬』の画家 赤羽末吉	『スーホの白い馬』などの赤羽末吉の絵本をピエゾグラフィや多数の資料で紹介する展覧会を、開催館と協力して行った。	3,747名	9月9日～11月7日	北海道立文学館(北海道札幌市)
	没後50年 初山滋版画展 初山イズム	初山滋の版画や資料59点を展示し、版画家としての初山の画業を紹介する展覧会を、開催館と協力して行った。	1,735名	9月30日～11月26日	須坂版画美術館・平塚運一版画美術館(長野県須坂市)
	ピエゾグラフィによるいわさきちひろ展 ～平和への祈り～	ちひろの代表作や長野ゆかりの作品、『戦火のなかの子どもたち』などを、ピエゾグラフィやパネルで紹介した。	579名	10月4日～10月15日	八十二文化財団・ギャラリー82(長野県長野市)

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
【展覧会】	高崎絵本フェスティバル 第30回絵本原画展 やっぱり福音館	赤羽末吉『スーホの白い馬』のピエゾグラフ24点を展覧した。	6,077名	2024年1月20日～1月30日	高崎シティギャラリー(群馬県高崎市)
	出久根育展 チェコからの風 静寂のあと、光のあさ	出久根育『あめふらし』5点、『マーシャと白い鳥』10点を展覧した。	11,323名	2024年1月20日～3月3日	武蔵野市立吉祥寺美術館(東京都武蔵野市)
【講演会】	松本猛講演会 母、いわさきちひろの作品と思い出	展覧会に関連し、松本猛が講演会を行った。	100名	5月5日	仙台文学館(宮城県仙台市)
	松本猛講演会「いわさきちひろと黒姫児童文化村」	展覧会に関連し、松本猛が講演会を行った。	45名	6月11日	黒姫童話館&童話の森ギャラリー(長野県信濃町)
	上野千鶴子講演会「いわさきちひろ～美しいものを守る闘い」	展覧会に関連し、社会学者・上野千鶴子が講演会を行った。	157名	6月11日	仙台文学館(宮城県仙台市)
	韓国の絵本画家スージー・リー講演会「物語はあなたにあり」	韓国の絵本画家スージー・リー氏を迎え、松川村図書館との共催で講演会を行った。	45名	2024年3月18日	松川村・すずの音ホール
【ギャラリートーク等】	「ちひろの“にじみ”技法体験 マグネットとメッセージカードをつくろう」	展覧会に関連し、ちひろの技法を体験するワークショップを行った。	45名	5月20日	仙台文学館(宮城県仙台市)
	展示担当者のギャラリートーク、スライドトーク、開催地域の団体による読み聞かせ	展覧会の見どころを、担当者がギャラリートーク、スライドトークにより伝えた他、開催地の読み聞かせ団体による、絵本の読み聞かせが行われた。	トーク2日間計140名、読み聞かせ9日間計390名	7月22日、8月26日(各2回)	西田美術館(富山県上市町)
	展示担当者のギャラリートーク	ちひろの人生と信州との関わりをスライドトークで紹介したのち、展示会場にて見どころなどをギャラリートークで解説した。	25名	10月7日	八十二文化財団・ギャラリー82(長野県長野市)
	オンラインギャラリートーク	安曇野市の美術館と提携し、学芸員が開催中の展覧会の見どころを解説する動画を制作し、オンデマンド配信した。 *文化庁:令和5年度文化芸術振興費補助金(Innovate MUSEUM)事業		1月20日～	安曇野市(オンデマンド)

イ 絵本等に関する作品・資料の収集・保存、並びに調査・研究

作品・資料の収集	絵本原画、関連資料等の収集	いわさきちひろの作品14点(寄贈9点、返却5点)と遺品14点(寄贈12点、寄託2点)、中谷泰の作品5点(寄託)と関連資料8点(寄贈)、初山滋の作品・資料あわせて100余点(寄託)、ピーター・シスのグリーティングカード1点(寄贈)を、新規に収集した。		通年	両館
	絵本と絵本の歴史資料の収集	「こどものはた」「子どもの村」などの戦後の児童雑誌64点(寄贈)をはじめ、未来に継承すべき優れた芸術性を持つ絵本の資料・絵本の歴史資料の収集を進めた。		通年	両館
	絵本、関連書籍等の収集	優れた芸術性を持つ、魅力的な絵本の収集を進めた。		通年	両館
作品・資料の保存	作品・資料の保存管理	絵本原画を中心とした収蔵作品の適切な保存管理を行なうとともに、画像データベース等での作品整理を進めた。		通年	両館
	作品・資料のデジタル・アーカイブス	いわさきちひろ(ピエゾグラフ27点/追加出力3点/複製画6点)と世界の絵本画家の作品(ピエゾグラフ5点/スキャン10点)・資料のデジタル・アーカイブスを、災害時対応にも備えつつ、進めた。		通年	両館
	作品・資料の修復	中谷泰「パンをとる子供」(油彩)の修復を行った。		随時	両館
作品・資料の調査・研究	コレクション作家等の調査・研究	展覧会にあわせて初山滋、司修、谷内こうた、中谷泰等の表現・技法、作家の人生、芸術観、時代背景等について、調査・研究を行い、調査資料のドキュメンテーションを進めた。		通年	両館
	作品・資料等のアーカイブス	データベースに登録した作品(原画とピエゾグラフ)、図書、遺品、歴史展示資料などのさらなるデータ整備を行った。いわさきちひろの写真資料5,000点を整理、デジタル化し、データベースへの登録を進めた。2024年のいわさきちひろの没後50年にむけ、これまでの研究成果を「いわさきちひろ写真目録」にまとめるための準備を行った。		通年	両館
	絵本とイラストレーションの歴史の調査・研究	絵本とイラストレーションの歴史に関する資料の整理、調査・研究を進め、展覧会にいかした。		通年	両館
	絵本等に関する調査・研究	新旧の絵本の表現、テーマ、絵本の造形について、外部の研究者とも連携しながら調査・研究を進めた。とくに展覧会に関連して2010年～2021年の絵本について調査し、絵本画家にインタビューを行い、映像や図録を制作した。		通年	両館
	研究成果の公開 公式サイトでの作品、展示解説掲載	調査、研究の成果を展覧会等にかすとともに、作品解説、展示解説等にまとめ、逐次、公式サイトで公開し、国内外にむけて発信した。		通年	両館
	研究成果、活動成果の公開 「美術館だより」の発行(展示会期ごと)	研究や活動の成果を、展示紹介、活動紹介等にまとめ、展覧会にあわせて発行する「美術館だより」や公式サイトを通じて公開した。		通年	両館

ウ 絵本等に関する教育活動

ワークショップ・講座の開催	「ちひろの願い 世界中の子どもみんなに 平和と しあわせを」ちひろ美術館コレクション「なんて世界はすばらしいのだろう」関連ワークショップ「想いをつなぐにじみのガーランド」	来館者がにじみの紙にメッセージを書き、ガーランドに飾るワークショップを行った。	計2041名	3月1日～5月28日	安曇野ちひろ美術館
	親子で楽しむ文化講座 わらべうたあそび	0、1、2歳の乳幼児とその保護者を対象にした、わらべうたあそびの会を開催した(講師:服部雅子・西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰)。	計55名	4月15日、7月15日、10月21日	ちひろ美術館・東京
	「ちひろの願い 世界中の子どもみんなに 平和と しあわせを」関連ユニセフ出前授業「ユニセフと世界のともだち」	岐阜県ユニセフ協会から講師を招き、出前授業を開催した。	21名	4月16日	安曇野ちひろ美術館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所	
ワークショップ・講座の開催	あかちゃんのための鑑賞会	0、1、2歳の乳幼児とその保護者を対象にした、あかちゃんのための鑑賞会を開催した(講師:富田めぐみ・NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表)。	22名	9月16日	ちひろ美術館・東京	
	子どものための鑑賞会	3歳児～小学1年生とその保護者を対象にした、幼児～児童のための鑑賞会を開催した(講師:富田めぐみ・NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表)	26名	9月23日	ちひろ美術館・東京	
	あかちゃんと保護者のための鑑賞会「あかちゃんとおでかけしよう！」	乳幼児とその保護者を対象に、子どもといっしょに美術館を楽しめる、ファーストミュージアムデーを年2回開催し、展示を中心に館内各所での鑑賞会や、絵本の読み聞かせ、ふれあい遊びを行った。	計24名	4月9日、11月19日	安曇野ちひろ美術館	
	「2010→2021 日本の絵本展」関連 はたこうしろうワークショップ「世界にひとつの絵本をつくろう！」	絵本画家のはたこうしろうを講師に迎え、絵本をつくるワークショップを行った。(共催:松川村図書館)	31名	7月30日	安曇野ちひろ美術館	
	「初山滋展」関連 ワークショップ「ちひろと初山滋の水彩技法を体験しよう！」	初山滋といわさきちひろの水彩技法を体験するワークショップを行った。	32名	11月11日	安曇野ちひろ美術館	
	ちひろ忌		ちひろが亡くなった8月8日にあわせてアトリエトーク等を行い、ちひろの業績や人生を伝えるとともに、世界中の子どものしあわせと平和を願ったちひろの思いを、来館者とともに考える機会とした。	92名	8月8日	ちひろ美術館・東京
				458名	8月8日	安曇野ちひろ美術館
	夏休みワークショップ:ちひろの水彩技法体験	ちひろの水彩技法の特徴のひとつである「にじみ」を使って、缶バッジを制作するワークショップを行った。	計88名	8月22日、23日	ちひろ美術館・東京	
	アトリップ(認知症の方に向けた対話型アート鑑賞プログラム)	認知症の方とご家族や介護の方を対象に、展示室の作品の前で、進行役のアートコンダクターの質問に答えながら、参加者が感じたこと、思ったことを自由に発言、共有する対話型アート鑑賞プログラムを開催した。(講師:林容子 アーツアライブ代表) *文化庁:令和5年度文化芸術振興費補助金(Innovate MUSEUM)事業	8名	10月27日	ちひろ美術館・東京	
	ワークショップ「あなたの「好き」をつくろう、えがこう！」	外国にルーツを持つ保護者と、そのお子さんを対象に、ワークショップを行った。(講師:富田めぐみ・NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表) *文化庁:令和5年度文化芸術振興費補助金(Innovate MUSEUM)事業	11名	11月26日	ちひろ美術館・東京	
	障がいのある方のための鑑賞会	障がいのある方が、より安心してお過ごしいただけるよう、休館日にアート・コミュニケータのサポートのもと、開催中の展覧会の特別鑑賞会を行った。(協力:アートコミュニケータ東京) *文化庁:令和5年度文化芸術振興費補助金(Innovate MUSEUM)事業	20名	11月27日	ちひろ美術館・東京	
	ちひろの誕生日・アトリエトーク	ちひろの誕生日に際し、ちひろの復元アトリエにて、愛用の品々や制作の舞台裏、家族との日々の暮らし、そして作品の技法などについて話す、アトリエトークを開催した。	30名	12月15日	ちひろ美術館・東京	
	手話通訳つきギャラリートーク	ちひろ美術館・東京で開催中の「ちひろ美術館セレクション 2010→2021 日本の絵本展」の見どころを、担当学芸員が手話通訳者を介して語った。 *文化庁:令和5年度文化芸術振興費補助金(Innovate MUSEUM)事業	16名	12月16日	ちひろ美術館・東京	
	目の見えない白鳥さんといっしょにちひろの絵を楽しもう	全盲の美術鑑賞者である白鳥建二氏を迎え、開催中の展覧会を、会話をしながら楽しむ鑑賞会を行った。 *文化庁:令和5年度文化芸術振興費補助金(Innovate MUSEUM)事業	9名	2024年1月8日	ちひろ美術館・東京	
	ちひろの水彩技法体験 にじみのぼち袋づくり	ちひろが得意とした水彩の「にじみ」を体験し、好きな部分を切り抜いて、ぼち袋をつくるワークショップを開催した。	計83名	2024年1月4日、5日	ちひろ美術館・東京	
	美術館カードで絵を楽しもう	練馬区立美術館とちひろ美術館の所蔵品カードを使ったゲームやワークショップを、ねりま若者サポートステーションの若者の協力を得て開催した。 *文化庁:令和5年度文化芸術振興費補助金(Innovate MUSEUM)事業	計102名	2024年1月6日、20日、21日	練馬区立南田中図書館、練馬区立美術館	
ちひろの絵による『窓ぎわのトットちゃん』ワークショップ	安曇野ちひろ公園トットちゃん広場と安曇野ちひろ美術館館内において、『窓ぎわのトットちゃん』のさまざまなエピソードを元に、関連したワークショップ等を、地域の人々や地元の学校の協力を得て、開催した。		随時	安曇野ちひろ公園・安曇野ちひろ美術館		
学校との提携活動	地元中学校との提携活動—中学生ボランティア	キャリア教育の一環として、松川中学校と連携し、13名の中学生ボランティアが、7月29日、7月30日に、絵本画家はたこうしろうのアーティストトークとワークショップのサポートを行った。また、23名の中学生ボランティアが、8月6日～8月8日の3日間、来館者を対象に絵本の読み聞かせを行った。	計292名	夏休み期間中	安曇野ちひろ美術館	
	出前授業、出前講座	ちひろの画業や絵の魅力を伝え、その技法を体験するワークショップを含めた出前授業、出前講座を、学校等に出向いて実施した。	計148名	4月24日、4月25日	練馬区立下石神井小学校	
			計106名	9月4日、9月5日、9月7日	杉並区立三谷小学校	
			計132名	9月28日	松川村立松川小学校	
		安曇野市の美術館、博物館と連携し、「あづみの学校ミュージアム」を実施し、鑑賞授業を行った。 *文化庁:令和5年度文化芸術振興費補助金(Innovate MUSEUM)事業	計170名	11月28日	安曇野市立豊科東小学校	
学校団体への各種教育プログラム	授業で来館する学校に対し、開催中の展覧会の鑑賞教育をはじめ、各種教育プログラムを行った。	計320名	5月8日、5月9日、9月13日、11月2日、2024年3月7日、3月11日、3月12日	ちひろ美術館・東京		

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
学校との提携活動	学校団体への各種教育プログラム	授業で来館する学校に対し、開催中の展覧会の鑑賞教育をはじめ、各種教育プログラムを行った。	計674名	5月12日、18日、6月15日、22日、7月6日、11日、14日、20日、22日、9月15日、29日、10月3日、5日、13日、20日、27日、28日、11月12日、17日、30日	安曇野ちひろ美術館
	スクールミュージアム	キャリア教育の一環として、長野県内の希望校を対象に、複製画等の貸し出しを行い、生徒キュレーターとして生徒の力で展覧会が開催できるよう展覧会のつくり方を指導した。	1校	通年	松川村立松川中学校
	教員向け内見会・内見週間の開催	教員を対象とする内見会・内見週間を開催、博学連携の活動を行った。	計9名	11月14日～26日	ちひろ美術館・東京
			計27名	9月16日～30日、2024年3月23日～4月7日	安曇野ちひろ美術館
	大学での講義	静岡大学教育学部開講科目「生涯学習概論Ⅱ」における「博物館の機能と役割」の単元で、ちひろ美術館両館の活動について当館学芸員がオンラインでの講義を行った。	46名	12月14日	静岡大学(オンライン)
	職場体験実習・インターンの受入	練馬区近辺、松川村近辺の中学・高等学校からの職場体験実習を受入れ、美術館業務の体験を提供して若者の社会教育の機会を提供した。	計8名	9月14日、15日、20日、22日、27日、10月24日、25日	ちひろ美術館・東京
			計4名	7月20日、21日、25日、26日、9月16日	安曇野ちひろ美術館
学芸員実習の受入	学芸員実習生の受入(東京館:女子美術大学1名、学習院大学1名、東京大学1名)を行った。	3名	8月8日～25日の内7日間	ちひろ美術館・東京	

エ 絵本等に関する普及活動

絵本等の公開・閲覧	両館での絵本図書室・絵本カフェによる絵本の公開・閲覧	長きに渡って愛され続ける絵本とともに、新刊等幅広い国内外の絵本を、絵本の専門美術館としての視点で選書し、芸術性に優れた魅力的な絵本を配架し、両館の絵本図書室・絵本カフェ等での閲覧に供した。		通年	両館
絵本等の紹介活動	コレクション画家・企画展画家・その他の世界の絵本画家の絵本等の紹介、頒布、レファレンス、読み聞かせ指導、読書指導	当館の視点で選書した国内外の絵本を、絵本図書室、公式サイト等で紹介、普及、頒布するほか、どのような絵本を選べばよいのか、どのように読めばよいのか等々、来館者をはじめ、幅広い求めに応じて、適宜、選書や読み聞かせの方法等についてアドバイスをし、日々の暮らしの中で身近に絵本を楽しめるよう支援した。		随時	両館
読み聞かせ会	絵本のじかん(絵本の読み聞かせ)、絵本の広場等の開催	絵本の理解を深め、展示鑑賞をより充実したものとするため、両館それぞれで、定期的に絵本の読み聞かせ会を開催する。また同様に、学校・保育園等などの団体鑑賞の希望に際して、読み聞かせを行った。	全20回計365名	毎月第2・4土曜日	ちひろ美術館・東京
			全28回計561名	毎月第2・4土曜日 他、希望に応じて随時	安曇野ちひろ美術館
地域・団体との提携による複製画展	各地の自治体、地域、団体との提携による、複製画展等の開催	各地の自治体、地域、団体等の求めに応じて、複製画展や関連の講演会を開催するとともに、絵本に親しむ機会を設け、読み聞かせ会等を実施した。		6月12日～6月25日	みんなの森ぎふメディアコスモスみんなのギャラリー(岐阜県岐阜市)
				7月12日～9月1日	立川総合病院(東京都立川市)
			1504名	10月7日～10月22日	大町山岳博物館(長野県大町市)
	4636名	11月23日～12月17日	国営アルプスあづみの公園(長野県安曇野市)		
	施設・団体・学校との提携による、平和のパネル展の開催	ちひろの平和への願いを伝えるために、平和の絵本2冊のパネルを、希望する施設・団体・学校に貸し出した。	585名	7月29日～8月13日	なごみの米屋スカイタウンギャラリー(千葉県成田市)
			570名	8月3日～8月4日	高槻市立障害学習センター(大阪府高槻市)
1500名			11月10日～11月13日	高槻市立日吉台公民館(大阪府高槻市)	
病院との提携活動	季節ごとの病院院内展示・ワークショップの開催	来館が難しい患者やその家族を対象に、病院内での複製画展を行うとともに、絵本に親しむ機会を設けた。		随時	東京女子医科大学病院、聖路加国際病院、長野県立こども病院、埼玉医科大学総合周産期母子医療センター、国立成育医療研究センター、同センター内医療型短期入所施設「もみじの家」、富山県リハビリテーション病院・こども支援センター、聖マリアンナ医科大学病院

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
オ 絵本等に関する国際交流					
海外における展覧会・講演会、ワークショップ	海外における、ちひろや日本の絵本展ならびに教育普及活動	国際交流基金、Cita Cerita Anak財団との共催により、ピエゾグラフィ展「Ehon: Jelajah Cerita dan Seni Buku Anak Jepang (Friends of the World Ehon: Exploration of Story and Art of Japanese Children Books)」を開催し、ちひろ美術館コレクションのなかから日本の絵画家といわさきちひろの作品(絵本12冊より30点)を紹介するとともに、水彩技法体験ワークショップ、日本語・インドネシア語2言語での絵本の読み聞かせ、ギャラリートーク、絵本を題材とするお話パフォーマンスなどを行った。	1,369名	2024年2月2日～26日	インドネシア
海外からの研修受入と交流	海外の絵本関係者等の交流	6月、安曇野館のある松川村の友好都市・鹿港鎮(台湾)の鹿鳴国民中学校を松川村の担当者とともに訪問。7月、同校の生徒24名と引率教員、保護者等が安曇野館に来館し、館内や公園見学、ちひろの水彩技法体験等を行い、交流を深めた。	49名	6月12日、7月11日	台湾、安曇野ちひろ美術館
	コレクション画家たちとの交流	チェコの画家トゥルンカの遺族(東京館)、カナダ・トロント州立大学の児童文学とメディア学教授(東京館)、韓国の絵本画家スージー・リー(安曇野館)等、海外の絵本関係者などの来館や視察に対応し、各館で交流を深めた。		随時	両館
	コレクション画家たちとの交流	コレクション展の機会などに、海外の画家たちと連絡を密にとり、展覧会へのメッセージを依頼したり相互に近況報告をするなどして交流を深めた。		随時	両館
海外の関係機関とのネットワーク	絵本や子どもの本の専門機関との提携活動	シンガポールのAFCC(Asian Festival of Children's Content)の一環として開催される、BIG2023(BookIllustratorsGallery本のイラストレーションギャラリー)のための審査に協力した。		5月25日	シンガポール(オンライン)
	絵本美術館との連携強化	KBBY(Korean Books for Young People)から絵本35冊の寄贈を受け、安曇野館・絵本の部屋にコーナーを設置した。		4月～5月	安曇野ちひろ美術館
	絵本美術館との連携強化	姉妹館であるエリック・カール美術館(アメリカ)で開催された展覧会Eric Carle♥Japan(「エリック・カールは日本が好き」展)に協力し、会期中の関連プログラムで、ちひろ美術館といわさきちひろの魅力を紹介した。	72名	7月11日	アメリカ(オンライン)
カ 絵本等に関する支援活動					
絵本の専門家への支援活動	絵本の研究者、絵本作家等への研究・創作支援	絵本の研究を目指す学生、専門家、また、絵本作家等の絵本の専門家を対象に、求めに応じて、それぞれの研究テーマを精査した上で、当財団コレクションの絵本原画、絵本、資料を活かして研究や活動を支援していく。		随時	両館
	絵本美術館に関する研究者、専門家等への研究支援	絵本美術館について学ぶ学生や専門家を対象に、求めに応じて、それぞれの研究テーマを精査した上で、当財団の絵本専門美術館の設置・運営に関する経験と実績、資料を活かした研究や活動を支援していく。		随時	両館
展覧会鑑賞者・絵本受容者への支援活動	鑑賞者のより深い作品・作家理解のための解説、ガイドブックの作成、並びに画集・複製画の紹介、頒布	鑑賞者が作品や作家に興味を持ち、理解を深めるための手助けとして、解説やガイドブック、ワークシート等を作成、配布するとともに、画集や複製画の紹介、頒布等を行い、それらを通して鑑賞を助けた。		随時	両館
	館内での絵本レファレンス、絵本紹介、読み聞かせ等への支援	絵本の問い合わせ等に随時対応する他、来館者を対象に、求めに応じて、絵本の紹介や、読み聞かせの方法等についてアドバイスを行う等、支援した。		随時	両館
	地域の図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ等への支援	地域の保育園、幼稚園、学校、図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設等と協力し、求めに応じて、絵本の選び方や読み聞かせの方法等についてアドバイスを行い、地域住民が生活の中で日常的に絵本を楽しめるよう支援していく。		随時	両館
地域の子育て支援団体との提携活動	展覧会鑑賞のバリアフリー化	「ちひろ美術館のあゆみ」動画に、新たに手話通訳を入れて編集しなおし、オンラインおよび館内で放映した。*文化庁:令和5年度文化芸術振興費補助金(Innovate MUSEUM)事業		随時	両館
	地域の子育て支援団体等と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ等への支援	地域の子育て支援団体や保護者らのグループ等と協力し、求めに応じて、絵本の選び方や読み聞かせの方法等についてアドバイスを行い、地域住民が生活の中で日常的に絵本を楽しめるよう支援した。		随時	両館
その他					
被災地支援	災害支援の取り組み	東日本大震災等の被災証明や被災証明を提示した来館者は全員無料とした。	東京館 17名 安曇野館 5名	通年	両館
		館内の来館者に対し、震災、豪雨災害等日本各地での被災地支援の義援金を呼びかけた。		通年	両館
無料入館日	高校生以下・18歳以下無料	子どもたちがいつでも訪れることができる場所として、2005年以降行ってきている高校生以下無料入館の対応を引き続き行うとともに、2023年7月1日より、入館無料の対象を、高校等への在籍の有無を問わず18歳以下に広げた。	東京館 4,133名 安曇野館 9,963名 計 14,096名	通年	両館
	無料入館日の取り組み	美術館が人々にとって、魅力的で楽しい場所となるよう、受け入れを工夫し、美術館が社会に果たす役割を高め、より広範の人々にアピールする好機として、右記の通り、両館で無料入館日を行った。	65歳以上の方対象 東京館 70名 安曇野館 136名	9月18日(敬老の日)	両館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
無料入館日	無料入館日の取り組み	美術館が人々にとって、魅力的で楽しい場所となるよう、受け入れを工夫し、美術館が社会に果たす役割を高め、より広範の人々にアピールする好機として、右記の通り、両館で無料入館日を設けた。	長野県民 松川村民 対象計1322名	長野県民感謝デー:11月26日、2024年3月24日 松川村民感謝デー:2024年3月3日	安曇野ちひろ美術館
支援会員制度等	支援会員(寄付会員)制度等、寄付の取り組み	当財団およびちひろ美術館(東京・安曇野)の理念を積極的に伝え、世界的にも散逸しやすい絵本原画の収集・保存・研究・展示公開、並びに、絵本の普及や国内外での絵本文化支援活動を支えていただく寄付を呼びかけ、支援会員制度他の寄付を受けた。	支援会員数658名 (新規122名・継続536名)	通年	両館

収1

その他の法人の目的を達成するために必要な活動	ミュージアムショップの運営	来館者の展覧会鑑賞がより豊かなものとなるよう、ミュージアムショップの運営を行う。		通年	両館
------------------------	---------------	--	--	----	----

■2023年度事業報告 入館者数一覧

1.絵本美術館の設置運営

2023年度の入館者数は、ちひろ美術館・東京35,116名、安曇野ちひろ美術館80,188名、両館合計で115,304名となった。

■ちひろ美術館・東京

2023年4月～2024年3月 入館者数内訳(月別)

月	開館日数	有料入館者数		無料入館者数						全入館者数	1日平均入館者数
		大人	小計	中高生	小学生	幼児	支援会員	招待者 その他 無料	小計		
4	26	1,837	1,837	26	69	153	28	344	620	2,457	95
5	27	2,803	2,803	35	250	181	23	593	1,082	3,885	144
6	22	3,209	3,209	21	84	147	28	509	789	3,998	182
7	26	1,799	1,799	76	76	204	14	332	702	2,501	96
8	27	2,050	2,050	189	199	225	14	290	917	2,967	110
9	26	2,581	2,581	21	64	212	18	539	854	3,435	132
10	22	2,527	2,527	23	81	205	23	511	843	3,370	153
11	26	2,659	2,659	58	128	242	20	595	1,043	3,702	142
12	23	1,918	1,918	42	66	133	21	700	962	2,880	125
1	12	1,941	1,941	38	134	153	13	508	846	2,787	232
3	27	2,095	2,095	48	224	326	16	425	1,039	3,134	116
合計	264	25,419	25,419	577	1,375	2,181	218	5,346	9,697	35,116	133
構成比		72.4%	72.4%	1.6%	3.9%	6.3%	0.6%	15.2%	27.6%	100.0%	
前年合計		18,343	18,343	549	1,081	2,126	179	2,619	6,554	24,897	100
前年比		138.6%	138.6%	105.1%	127.2%	102.6%	121.8%	204.1%	148.0%	141.0%	133.0%

* 2023年度の入館者総数は35,116名(133名/日)。2022年度より10,219名増加(前年比141%)。目標数(33,000人)比2,116名プラス、達成率106.4%。

* 2024年1月15日から2月29日まで冬期休館、開館日数は264日(通常開館の2018年度は278日)。

* 入館者割合は、大人:中高生:小学生:幼児が、88:2:4:6(2022年度は85:2:4:9)。

* 年間パスポート販売数は97枚(291,000円)。利用者数(リピーターを含む)は521名。(2022年度の年間パスポート販売数は103枚、利用者数は460名)

* 「ぐるっとパス」入館者数は3,243名(2022年度2,482名、前年比131%)。

* 外国人来館者は、年間で408名(前年111名、前年比368%)。

配布プロシヤ言語の内訳は英語44%、韓国語35%、中国語繁体字12%、中国語簡体字9%。

■安曇野ちひろ美術館

2023年4月～2024年3月 入館者数内訳(月別)

月	開館日数	有料入館者数		無料入館者数						全入館者数	1日平均入館者数	
		大人	小計	中高生	小学生	幼児	支援会員	その他 無料	松川村 招待者			小計
4	26	4,362	4,362	205	181	218	7	496	130	1,237	5,599	215
5	25	8,423	8,423	265	546	410	6	761	134	2,122	10,545	422
6	24	4,632	4,632	43	205	167	8	462	100	985	5,617	234
7	27	7,171	7,171	396	445	367	7	707	114	2,036	9,207	341
8	31	12,646	12,646	1,161	1,357	863	10	1,078	223	4,692	17,338	559
9	22	6,532	6,532	174	208	286	12	744	122	1,546	8,078	367
10	27	8,623	8,623	117	548	281	6	906	152	2,010	10,633	394
11	25	5,858	5,858	123	266	251	11	983	118	1,752	7,610	304
12			0							0	0	
3	27	3,005	3,005	162	323	395	4	1,428	244	2,556	5,561	206
合計	234	61,252	61,252	2,646	4,079	3,238	71	7,565	1,337	18,936	80,188	343
構成比		76.4%	76.4%	3.3%	5.1%	4.0%	0.1%	9.4%	1.7%	23.6%	100.0%	
前年合計		57,400	57,400	2,388	3,636	3,155	66	6,114	1,205	16,564	73,964	319
前年比		106.7%	106.7%	110.8%	112.2%	102.6%	107.6%	123.7%	111.0%	114.3%	108.4%	107.5%

* 2023年度の入館者総数は80,188名(343名/日)。2022年度比6,224名増(前年比108.4%)、目標数(100,000名)比19,812名マイナス、達成率80.2%。

* 昨年に引き続き毎週水曜日を休館日とし、ゴールデンウィークと8月は無休で開館した。

* 12月1日から2024年2月29日まで冬期休館、開館日数は207日(2022年度は205日)。

* 入館者割合は、大人:中高生:小学生:幼児が88:3:5:4(2022年度も同)。

* 年間パスポート販売数は64枚(192,000円)、利用者数(リピーターを含む)は251名。(2022年度の年間パスポート販売数は67枚、利用者数は235名。)

* 団体入館者数は、9,326名(2022年度は5,499名・前年比170%)。

入館者全体に占める団体割合は11.6%(2022年度は7.4%。コロナ禍前は18%程度で推移)。

* 外国人来館者は、年間で856名。内、インバウンドの団体は26件で561名(2022年度は21名)

配布プロシヤ言語の内訳は英語39%、韓国語30%、中国語繁体字20%、中国語簡体字11%。

■2023年度 事業報告書の附属明細書

当財団の事業報告書については、附属明細書に該当する事項がないため、附属明細書を省略する。